

平成28年度第1回京都府総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成28年7月14日（木）午後4時から5時まで
- 2 場 所 京都府庁1号館3階会議室
- 3 出席者 山田 知事、小田垣 教育長、畑 教育委員（教育長職務代理者）、
冷泉 教育委員、平塚 教育委員、上原 教育委員、安藤 教育委員
- 4 議事内容

（1）知事あいさつ

（森下文化スポーツ部長）

今年度、第1回目の京都府教育会議を開催したいと思います。それでは開会に当たりまして山田知事からごあいさつをお願いいたします。

（山田知事）

おかげさまで昨年度は「京都府の教育等の振興に関する大綱」を無事まとめることができました。今年度は、この大綱がどういうふうに進んでいるのかを事務局から報告していただき、それに対して御意見をいただきます。子どもの貧困対策から妊娠と学業の問題など、さまざまな問題も含め、皆さんから活発な御意見を伺えればと思っています。

今日は特にこのテーマについてということではなく、第1回目の会議として皆様の忌憚のない御意見をいただき、また遠慮なく新たなテーマをお出しいただきたいと思いますので、どうかよろしく願い申し上げます。

（2）「京都府の教育等の振興に関する大綱」の実現に向けて

（森下文化スポーツ部長）

まず初めに事務局から現状の取組について御説明申し上げます。

（中地文教課長）

文化スポーツ部文教課長の中地です。「京都府の教育等の振興に関する大綱」の基本方針の3つの柱に沿って、4月から現在までの取組や、主な予算措置の状況について御説明させていただきます。

まず「次代を担う子どもたちが、変化の激しい社会をたくましく生き抜くことができる力の育み」について。各私立高校では建学の精神に基づき各校で特色ある教育を推進し、日本の伝統に基づく礼儀マナー教育や、宗教を通して豊かな感性や人間性を育てる教育を行っています。さらに、コンピューターや会計、看護、福祉などの資格を取得できるコース、また海外留学制度を活用したコースなど、制度の目標に合わせて、さまざまなコース

を設置しているところです。

また、府教育委員会では、質の高い学力の育成に向けて、特に今年度は海外サテライト校事業の本格実施をはじめ、高校生の留学支援や英語教育人材の育成強化など、京都の次世代を担うグローバル人材の育成に取り組まれています。

次に、「すべての子どもたちが夢を持ち、安心して学ぶことができる環境づくり」について。子どもの貧困対策は、健康福祉部、教育委員会、文化スポーツ部が連携して、京都府として重点的に取り組んでいるところです。教育委員会では基礎学力定着のための学習支援のほか、大学教員等で構成する3つの専門家チームの学校への派遣や、「まなび・生活アドバイザー」の配置拡充などに取り組んでいます。

健康福祉部では、ひとり親家庭の子どもの居場所づくり、母子父子寡婦世帯への修学資金貸付やひとり親家庭の親への職業訓練資金貸付などを行っています。文化スポーツ部では、「私立高等学校等あんしん修学支援事業」により生徒の授業料の支援を行っています。

また、いじめ、少年非行、不登校などの対応として、私学では京都府私学修学支援相談センターを設置するとともに、知事部局、警察、教育委員会が一体となって問題行動の防止、解決に取り組んでいます。そのほか、生徒減少期における私学の経営改革を踏まえた今後の将来ビジョンの協議を今年度実施することとしています。

最後に、「京都が世界に誇る文化財の保護と活用、伝統文化の継承と新たな文化の創造などの総合的な取組」について。今年度、知事部局と教育庁の緊密な連携による「文化財保護・継承推進プロジェクト」チームを起ち上げ、5月13日に第1回目の会議を行いました。国・府指定及び未指定の文化財の保護を総合的に調整するとともに、文化庁の京都移転を踏まえた文化財の新たな活用も検討しているところです。

また、高校生に対する文化財についての講義や重要文化財建造物の修理現場の見学など、京都の文化財を活用した教育にも取り組んでいます。

(山田知事)

文化庁の実証実験が始まり、今年は伝統文化教育の特色を出していかなければと思っているところです。京都ならではの伝統教育、文化教育を、ぜひ教育委員会と教育長さんに一緒に考えていただきたいと思います。

教育の国際化については、今、「府立高校海外サテライト校事業」を進めています、目に見える形でやっていきたいと思います。最近、外国の人と話したのですが、軽井沢に民間のボーディングスクールができたそうですが、基本的にボーディングスクールは非常にお金がかかるので普通の人とはとても行けない。でも、東京の金持ちは、東大、京大ではなく、ハーバードを目指すためにインターナショナルスクールに子息を入学させています。インターナショナルスクールの学費は年間300～400万円で、まさに格差の時代になっている。それで、「京都はボーディングスクールを公立でやらないか」と言われたのです。

私は「海外サテライト校に40人募集すると、そのうち37～38人は女子ですよ」と話したのです。

日本人の海外留学生が2万人を切ったのかな。たしか中国が何万人台に乗せたでしょう。韓国もそれぐらい。日本だけが減っている中で、海外留学をめざす学生がインターナショナルスクールに入学しているのは問題ですね。

子どもの貧困対策では、給付型奨学金が多分今度の補正案で出てくるか、次の当初予算で出てくるかというところです。京都府では私立高校生を対象に「あんしん修学支援事業」を継続しています。府立高校、府立中学も含めて、今まではどちらかという学校の居場所づくりのための事業を行ってきたのですが、本当にそれだけで足りているのだろうか少し疑問を持っています。

それと、文化庁移転を踏まえて、文化庁がずっと言っているのは、文化財保護行政だけをやってはだめで、伝統文化の問題、食の問題など、もっと文化自体を中心とした機能強化を図らなければいけないと。私どもでは教育委員会と府の文化スポーツ部が一緒になって文化財の活用を非常に熱心に進めていて、京都の場合の文化財の活用というと、すぐに観光が出てきてしまうのですが、本当にそれでいいのかという問題があります。

もう1点、いじめ、少年非行、不登校問題において、インターネットの問題にどう対応するか。これは1つ間違ると、とんでもない世界が広がっています。

こんなところが今の私の問題意識です。

(上原委員)

グローバル人材の話ですが、若い人は海外に行きたがらないというのは結構前から言われていて、その理由はいろいろあるのですが、極端な話が、ウォシュレットがないからとか、母親から離れたことがない若者が増えています。寮生活や修学旅行の経験があっても、あくまで先生の管理下での外泊であって、友達同士でキャンプに行くなど、家から飛び出したことがない。海外なんてとんでもないと。海外留学する若者が減っているのは、そういう育ちの事情がある。

(山田知事)

まさに子どもの教育の問題なのですけどね。

(畑委員)

先日、城陽高校で実施された観光庁主催の旅の授業の話を聞きました。京都でも自分の店を持とうとしている若い経営者が、大学時代に休学して世界一周したときのことを2回にわたって高校生たちに話したそうです。英語はひと言もしゃべれなかったとか、資金はアルバイトで稼いだとか。子どもたちはすごく熱心で、質問もたくさんあったそうです。やっぱりそういう授業が大事だなあと思いました。私たちが学生の頃は世代の違う先輩たちとの付き合いがもっとありましたが、今の日本は同世代の中で終始してしまうので。

(山田知事)

オバマさんの娘がギャップイヤーで1年間世界を回るそうですね。私どもも府立大学にギャップイヤーを導入しようと言ったのです。1年か半年ぐらいはどこか外国へ出て行ってらっしゃい、それでもちゃんと次につながりますよという制度があってもいいのではないかと。府立高校海外サテライト校はある面でそれを狙っているのです。そういう制度がないと、ひきこもった子どもばかりになってしまいますよね。

(冷泉委員)

この春チェコに行ったら、日本の女の子はキャピキャピしたのが何人もいるのですが、男の子が皆目いない。たまにいるのはおじさんなのです。それに対して、韓国人はヨン様みたいなのがたくさんいて、中国人も多い。自由に遊んでいるのは、韓国人と中国人の男の子。やっぱり日本で問題なのは、男の子の教育方法ですね。女の子が強くなったのは素晴らしいけれど、男の子も強くしないといけない。ギャップイヤーには女の子だけでなく必ず男の子にも行ってもらうような制度を何か考えないと。

(平塚委員)

さきほど上原委員が言われた外泊できない問題も、親離れしていないのは大体男の子なのです。我々の医療界でも、医科、歯科、共に学生の半数以上が女性です。東ヨーロッパでは歯科医は女性が7割を占めていますし、あと10年、20年もすれば、医者も女性が7割を占める。男性が出てこないというか、全て女性のほうがしっかりしてきている。

(上原委員)

去年、海外研修に行ってきましたね。

(小田垣教育長)

去年の夏、SGHの関係で、片岡社長の御協力で、鳥羽高校から片岡製作所アジア支店に高校生が1週間海外インターンシップで仕事をしに行きました。海外インターンシップはほとんどが男子です。

(山田知事)

そういう機会をどんどんつくらないといけないのではないですかね。

(小田垣教育長)

いろんな機会を学校単位でつくっていく必要があります。

(山田知事)

最近、海外の安全の問題が出てきて、ますます内にこもっている。一回海外に出るとおもしろいのですけどね。

(小田垣教育長) いろいろな事業を組んでいるので、敷居が下がっているのは事実ですね。一回行った子は意識がまったく変わってきて。

(山田知事)

変わりますよね。

(小田垣教育長)

ああいう事業をやっぱり地道に進めていくことが大事だと思います。特に海外サテライ

ト校は可能性がたくさんあると思います。

(山田知事)

韓国や台湾や香港、上海でもいいから、行けば、同じ顔をしているのに全然違うのがわかりますよね。府立の英語学校をつくりませんか。英語だけの学校を。

(小田垣教育長)

プログラムは割とそれに近い。第2外国語で中国語もやりますし、中国語の教師も採用しています。

(山田知事)

第1国語を英語でやるのは、構えてしまうのかな。

(小田垣教育長)

基本的に今もそういう授業になってきています。ただ、オーストラリアの海外サイライト校は時差がありませんので、3か月行くだけではなく、行っている間にICTで授業交流をしようと。例えば冷泉さんのお茶会が年に2回ありますよね。そういうものを向こうでも同時に開催するとか、そういう広がりを持たせてあげたい。

(山田知事)

経済界の皆さんが言うには、世界の50社の中に日本人の幹部はほとんどいないと。グーグルの元副社長の村上さんだけは例外ですが。ほかの国はいっぱいいるけど、日本はもう相手にされなくなっていますよと。今、完全に東大、京大が地盤沈下して留学生が来ないし、留学にも行かない中で、日本全体の地盤沈下が激しいと言っていました。「既にもはや日本は優秀でない」と書いている人もいます。どうするのかな。

(畑委員)

まあ、悲観的になっても仕方がないので、やっぱり新しい価値観の中で実践していく必要があると思う。例えば、京都の北部の高校は統廃合の問題も検討されていますが、私はいっそ全寮制の学校をつくって、通学で時間的な制約を受けず、3年間、みんなで寝食を共にするぐらいの勢いがあった方がいいのでは。

(山田知事)

京都版イートン校みたいなのを。

(畑委員)

環境としてはすばらしいし。逆にほかにはない。

(山田知事)

サテライト校も明確に出していったほうがいい。

(小田垣教育長)

北部のどこかに、海外につなげるという1つの価値を生み出す必要があると思う。舞鶴を通じて京都が世界の窓口となる。そういう意識を子どもたちに持たせられるような構想が必要。

(山田知事)

舞鶴港では来年度、クルーズ船が32ぐらい来て、それだけで6万4,000人ぐらいになる。

(畑委員)

観光客は舞鶴からみんな京都に行ってしまうのですか、

(山田知事)

それがやっぱり多いです。もちろん宮津の天の橋立や伊根に回る人たちもいるので、そちらもやりたい。もう1つは、韓国とウラジオストクのフェリーに3か国乗せたらおもしろい。せっかくだから特徴を出したいですね。

(山田知事)

この間、女の子が行ったオーストラリアはクイーンズランドでしたか。

(小田垣教育長)

サテライト校の去年度の試行で1名行きました。今年度の本格実施では何名か行きます。

(畑委員)

去年、いろんな学校から子どもたちが集まった授業をたまたま見たのですが、レベルが高い。同じ高校生でも環境を得たものすごい勢いで伸びる子どもたちと、そうでない子どもの格差を感じます。

(冷泉委員)

でも、それがイコール経済格差なのです。経済格差がそこにつながってしまうことが問題。

(山田知事)

2つ論点がありまして、前回も出ていましたが、まずアメリカの教育は格差というか、マイペースです。小学校でも「うちの子は進みが遅いから3年生を2回やらせませう」と、平気で親が言う。日本では小学校で落第はありえませんが、アメリカは全く違う。ちょっと遅かったら小学校でも2回やりませうと言うし、進んだ子はパッと飛び級で行ってしまう。それが日本は全部そろえてやっていく。そろえていながら実は2段階になっていて、お金持ちの子どもは先に行って、そうでない子どもは下がる。本当に個人の状況に応じてそれができるようにしていくのか、それとも今までみたいに全部上げていくのか。上げて

いくといっても、個人の能力差がある中でどうするのか。そして、それが経済格差の中に集約されてくると本当に社会的な格差になってしまうので、これをどうやって解決するのかという問題が今提起されている気がします。

(小田垣教育長)

今の高校教育制度改革の中で日本は特色化を進めています。例えば洛北中高一貫教育では京大の名誉教授の御指導で中高生と一緒に部活でかなりハイレベルの数学を勉強しています。今年、京都大学特色入試での医学部5人合格のうちの2人がこの卒業生です。京大の学部以上のレベルを中学生が学んでいるので。公立でもそんなふう子どもに応じた教育をいろいろ工夫はできる。

(山田知事)

洛北みたいに恵まれた形でやっているところがあるとしても、じゃあ、ほかの子たちはどうなるのかという問題があって、子どもの貧困問題ともつながってくる。

(畑委員)

先日、全国の教育委員会の会議があり、文科省の大臣官房の方が将来の日本社会の急激な変化を見据えてかなりはっきりした方針を出されていた。高大接続の問題など、こんなことでは絶対だめだからと、かなり過激な発言をされて、私は心強く思ったのです。地方行政の中でも、もっとそれを先取りするぐらいの勢いでないと、本当に社会の大きな変化についていけないだろうなと思いますね。

(山田知事)

海外サテライト校に行く生徒への負担金は、親の所得に応じて負担を少なくしてもいいのかもしれないね。今は一律に出しているから、逆に言うと、貧しい家庭の子は行けない制度になっている。所得に応じて負担金を変えることはできるのですかね。

(上原委員)

何でも一律に出せばいいというものではないと思いますね。出せない人には全額出して、出せる人にはある程度するみたいな制度もありだと。

(冷泉委員)

選考の段階で、「行きたい」と思う子と初めから選考にも行かない子との間に既に経済格差がある。お金がなくても行ってみたいという子はほぼいない。それが問題で、そもそもそんな意欲を持たないぐらい貧困が広がっていることは間違いないです。

(山田知事)

子どもたちにどうやって機会を与えるのかということは、やっぱり教育の一番原点だと思う。

(冷泉委員)

本当にそういう子たちを何とか底上げしないと。優秀な子を引っ張っていくのと、底上げと両方ですね。でも、貧困が広がっていることは事実です。

(山田知事)

貧困率の問題は、私はあまり好きではないのです。貧困率でいったら、一部の人間が金持ちで、全員が貧しいほうが、貧困率が低いことになってしまう。それは変だろと思うのです。でも絶対的な要支援児童の数は間違いなく増えているので、そこを何とかしなければいけない。私立高校のあんしん修学支援事業を続けているけれど、あれも本当に苦しい。今、幾ら使っているのですか。

(森下文化スポーツ部長)

学費軽減まで入れると40億円程度だと思います。

(山田知事)

府立大学に投入するのが80億円ぐらいだから、その半分を高校に入れている。

(畑委員)

大学生のほうが問題だと思うのです。奨学金という名のローンを40代半ばぐらいまで抱えてしまうわけですから。そのローンの資金は何になっているかといったら、親の経済をサポートするためだったりするわけで、そういう矛盾はもっとしっかり全体で解決してしまわないと、前へ進む若い世代の意欲が出てこない。

(山田知事)

だから、給付型がようやく形をあらわし始めた。

(畑委員)

「奨学金」という名前を使わなければいい。「奨学金」なのに、返せと言うのはおかしい話で。

(山田知事)

公立は修学支援と府立高校の就学支援金でかなり緩和されたと思う。緩和されていないところでは、高校からものすごい額が要りますからね。大学は何百万。院まで行ったら600万円位になるのでないかな。

(冷泉委員)

教育問題以前に親が子どもに御飯を食べさせない家庭がものすごく多い。教育の問題ではないかもしれないが、あれは本当に何とか解決したい。小学生にコンビニでお弁当を買わせている親が非常に多い。そうかと思えば、ごく一部の親は食材から自分でつくっている。その差たるや大変なものがありますね。

(山田知事)

だから、中学校の給食の問題が政治的な課題になっている。結局、「親がやらないから中学校も給食にしなきゃだめだ」という話になってきているのです。これもまた、子どもとしては、本当にどういう立場に立つべきか。今のところは市町村へお任せをしている状況ですけどね。

(冷泉委員)

できれば中学生全部に給食を与えたいと本当に思います。成長期にまともに食べられない子がこの日本にいるということ自体が残念です。

(上原委員)

子どもを産み育てるとはどういうことなのかをきちっと伝える場所が必要だと思えますね。学校教育の中に組み込まれるものかどうかはわからないけれども。

その責任を重荷と思っている人が結局産まないのでしょうか。

(冷泉委員)

そうなんです。

(山田知事)

「楽しいことだ」と言わなければいけない。

(上原委員)

子育ての時は楽しい部分もいっぱいあるので、それはもちろん両面があるのです。子どもを育てるということを保護者は理解しているのかなど。ちゃんと三食を与えて、きちっと朝起こして学校へ行かせるという基本的な部分ができていない家庭がある。

(冷泉委員)

やっぱり根本的に質の問題ですね。

(上原委員)

そうです。妊娠する、産むとはどういうことか。

(小田垣教育長)

高校の保健の授業や家庭基礎などで指導しているのは、家庭生活を安定させて、出産、子育てをするという図式です。ところが現実には在校生が妊娠するなど想定外の事例がたくさんあります。それに対して個別対応をどうしていくかが現状です。

(山田知事)

ロシアの大学の寮では毎年何人もお子さんが生まれるという話です。嘉田さん（元滋賀

県知事) もよく「大学に託児所を置いてくれ」と。学生の人に産むのが一番元気だからと。嘉田さん自身が学生の人に産んで、その時一番苦労したと。

(小田垣教育長)

青少年健全育成条例では18歳が一つの区切りです。

(山田知事)

18歳が選挙権まで持ってしまう時に、18歳は健全育成条例の対象なのかと。

(上原委員)

でも、未成年は未成年。高校生はまだ保護者の監督下に。

(山田知事)

そこはすごい矛盾になっている。そのあたりの議論をあまり整理されないまま、あっという間に全党賛成で決まってしまう。成人と未成年という場合も「18歳以下」にしないとおかしい。

(冷泉委員)

とにかく経済的に自立していないのに、子どもを産むのはやっぱり問題ですよ。18歳でも経済力があればまた話は別のような気がしますけども。

(山田知事)

ロシアやアメリカあたりでは生活奨学金だからそれができる。日本は学業の奨学金という形になっているから難しい。

(冷泉委員)

ロシア社会はよくわかりませんが、アメリカの子たちが本当に成功事例なのかどうかは、また別のような気がします。でも、とにかく出生率は上がりますよね。日本は出生率が下がっているのが大問題で。

(山田知事)

それはもうひとえに結婚しない人が増えたというのが第1点で、第2点は結婚年齢が男性は31歳、女性も30歳になっている。

(冷泉委員)

女の子は元気がいいけど、男の子は元気がないから、女の子が男の子に惹かれない。だから結婚年齢が上がって、結婚しない率が高くなる。

(山田知事)

逆に、50代、60代の人がもてたりしますね。今男性の20%、女性の10%が結婚しない。

多分それは50歳時点で計算しているからで、今の時点では多分男性の3割、女性の2割が結婚していない形になっている。10%の差は何かというと、男性が2回、場合によっては3回結婚しているのです。

(畑委員)

今は所得がそれなりにあっても、そこから社会負担を引かれるとほとんど可処分所得がない。そこも何とかしないといけない。

(山田知事)

教育でどこまで解決できるかという問題と、教育として何をしなければいけないのかという問題。我々はこの大綱に「生きる力」と出させていただいたのですが、まさにその部分ですね。生きる力、続ける力。

(小田垣教育長)

男女で共に家庭を支えるという意識をどう作り上げるか。男子が自分で家族を養う、家庭を支えるという意識が結構高いのです。そうじゃなくて、共に働いて共に育てるという意識をいかに作るか。

(上原委員)

若いお父さんは一生懸命にやっています。有給をとって父兄参観に行くし、昔のお父さんと違って、今の若いお父さんは育児にはかなり参加しているし。参加しているのか、させられているのか知りませんが、本当に一生懸命です。

する人はするけれど、全く結婚しない、結婚しても子どもをつくらないという主義の人もたくさんいます。

(山田知事)

諦めてバーチャルの世界に入っちゃっている人たちもいる。この問題は非常に難しいけど、事務局はこれをいかに大綱に書き込むか。文化の面はどうですか。

(畑委員)

やはり歴史教育がすごく大きい。日本の歴史教育の間違いは、政治史しか教えていないこと。もっと本当に人間の生き方や文化史教育が本当に必要だなと思います。

(山田知事)

確かに教科書にあるだけで、現実の文化に触れないですよ。

(畑委員)

そうです。いつも言うのですが、平安時代400年が同じようにばさっと年表に載っているだけで、400年の歴史の中でどういうふうに変化していったかと考えないと。

(山田知事)

以前はよく近現代史を教えないと言われたけれど、最近は直ったのですか。

(畑委員)

最近の歴史の教科書を見ると、近現代史のところがものすごく厚い。古代は本当にぱらぱらで終わってしまうぐらい。それでもやっぱり僕に言わせると政治史なのです。

(橋本教育次長)

今度の学習指導要領の改訂では、近現代中心で、日本史と世界史とを一緒にしてやっていこうと。

(畑委員)

でも、政治史。文化史、文化の面白さを本当に教えなければいけない。

(山田知事)

副読本でも作りますか。

(小田垣教育長)

昨日、馳大臣に知恩院を案内して、修復現場を見ていただきました。370年前の建築物で、その当時の瓦がある。これまでに3回ほど修復して、その都度、傷んだところを直していく。だから370年の歴史が全部残っています。それを御覧になってすごく感動されていました。京都の子どもたちはそれを身近に見られる環境にあるので、ぜひ修復の様子を費用負担で学習させていきたい。外国から来られた人にもお見せできるようにしたいなど思っています。昨日も大臣にその話をしたら、ぜひ頑張ってくれとおっしゃいました。

(山田知事)

文化教育ですね。京都式文化歴史教育。

(冷泉委員)

近現代史はもちろん重要ですが、日本は非常に歴史が古い。それも伝説ではなく、史料がある。世界では有数の国なのですね。その認識をやっぴりちゃんと教えないといけないと思います。近現代史はもちろん大事ですけど、過去を飛ばして近現代史ばかりやっていると、非常にややこしいことになると思います。だから過去と近現代の両方が連続した歴史を教えるということがものすごく重要だと思います。

(山田知事)

歴史は、単に事実を教えているだけで、比較史みたいな話は出てきません。日本では平安時代に女流文学が出て、比較すれば世界にそんな例はないみたいな。近現代史でも、日本がこうやった時に中国、韓国はどう教えているのかなど、やはり多面的な物の見方や多様性を育む教育が必要ではないかと思う。最近のインターネットを見ていつも思うのは、

ものすごく一面的で○か×かばかりではないですか。

(冷泉委員)

それと、高校生は日本史が必修になってないのが問題ですね。

(山田知事)

されてないのですか。

(畑委員)

選択ですから取らなくていいのです。

(山田知事)

何でそういうことに。

(橋本教育次長)

だから日本史と世界史をごっちゃにして、歴史と。

(山田知事)

京都は日本史を必修にしたらどうですか。

(橋本教育次長)

確か東京ではどこかがやっていますね。

(山田知事)

京都の府立高校では日本史は必修に。

(橋本教育次長)

これから多分全国的に必修になりますね。

(上原委員)

私がもう一つ気になるのは、京都の高校生と中学生は、京都の文化財がこれだけあるのに行ったことがない。他府県から修学旅行で京都に来て二条城へ行ったり清水寺へ行ったりするけれど、京都の高校生は二条城へ入ったことがありますかと。

(山田知事)

金閣寺へ行ったことがない人が結構いたりする。

(上原委員)

そうです。京都の地元の高校生や中学生が京都の文化財に全く触れていない。

(山田知事)

小学校の遠足では行くのですか。

(小田垣教育長)

学校によりますね。ですから、修復現場を見るとか、京都でしかやれないことをやりたい。

(山田知事)

小学校、中学校、高校における文化教育をもう一回見直して、日本の歴史と京都の歴史は非常に重なっているのです。そこを京都の子どもたちに教える独自のシステムがあってもいいのではないですかね。文科省の言うような話だけではなくて。

(冷泉委員)

やはり金閣寺も銀閣寺も、みんな当たり前過ぎて行かないようですね。ぜひ、必要かもしれませんね。京都やから、京都の人は一生に一遍絶対行ってみないかと。

(山田知事)

京都市の取組で、南区の公園に行くとスマホで羅城門が見えるというのがありましたね。ああいうものを教育現場でもどンドンできないのかな。

(小田垣教育長)

今、向日市が長岡宮跡でやっておられます。

(山田知事)

それをちゃんと学校の教育に組み込む。文科省の指導要領に従ってやらなければならない部分があるけど、いろいろ自由にできる部分もあるので。例えば京都は日本史を必修にすると、それは文科省の指導要領に反するのですか。「選択じゃなきゃだめだ」と。

(小田垣教育長)

それで編成基準をつくれればいけます。

(山田知事)

「京都の子どもたちに日本史の教育は徹底しましょう」と大綱ではできるが。具体的に必修にするかどうか、私はあまり口を出せない。

(小田垣教育長)

京都にしかできない教育も少し始めています。例えば、冷泉家の和歌の指導は世界中、京都にしかできない。

(山田知事)

大会か何かやっているのですか。

(小田垣教育長)

年に2回、歌会をやっています。

(山田知事)

歌会で優秀作品表彰とか。

(小田垣教育長)

それは、オリンピック・パラリンピック賛歌を去年から始めました。来年もやります。

(山田知事)

いいですね。それは冷泉さんに「高校生新古今和歌集」みたいなのを編んでいただいて。今の時代の高校生の歌を。

(冷泉委員)

お役に立つなら、させていただきますけど。今の子どもたちにとって古典は英語より異文化なのです。そこはもう少し距離を縮めたいですね。文法は一緒なので、そんなに構えんでもいいものやという感覚を京都だからこそ身につけてもらいたいですね。

(畑委員)

私なんかも古典でわからないところを英訳で直してということがあるのです。結構楽しいですよ。文法などでギリギリしてしまうから、その楽しさがわからなくなって。

(冷泉委員)

すごく距離を置く教育をしてきたのが事実ですね。だからもっと、京都やから金閣寺でも見たら、ああ、足利の文化とわかるような、そういう距離感を持たせたいですね。

(山田知事)

京都には目の前に踊りがあり、金閣寺があり、御所には高御座まであるわけですからね。

(上原委員)

海外ではよく美術館や博物館の入場料が地元の小学生、中学生は無料という制度がありますね。例えば地元の子どもたちは無料にして、地元の大人は割引があるとか。

(山田知事)

地元の子どもたちに対して少し考えてくださいよと。

(上原委員)

博物館の先例をつくって、IDカードや学生証で、地元の人は割引するとか。

(山田知事)

我々が補助金を出してもいいわけですよ。

(安藤委員)

親子で神社仏閣を巡ろうとしたら、駐車代は要るわ、拝観料は要るわ。
1日1件回ったらもうそれで終わりみたいな。

(上原委員)

せめて京都府内の中学生、高校生は無料に。

(冷泉委員)

ただのところもあると思います。この辺でもいっぱい安いところがあります。

(山田知事)

安く見られる京都の歴史地図を教育委員会で作って、親子で安く見られるようにするとか。

(畑委員)

私が面白いと思って言っても誰も賛同してくれなくて。いっぱいあるのですが。冷泉さんがおっしゃったように昔の話がそのまま今もあるのが京都で、こんな場所はないです。

この間たまたま水戸へ行って、なるほどと思ったのですが、1820年代に20数人の外国人青年が海岸に上陸しているのです。茨城県の水戸はご存じかどうか、そんな話は聞いたことがないですね。水戸の浪士や井伊直弼はけしからんと思っているわけでしょう。でも、彼らにとっては攘夷の意味が、海のない京都人や彦根人が言う攘夷とは違う。だからそういうことをもっと感じる。そういう教育をしないと歴史の教育にはならない。

(山田知事)

京都の子どもたちが韓国通信使をどれだけ知っているのだろうか。

(畑委員)

そういうことです。金閣寺がその時代の迎賓館だと知ったら、京都のイメージと金閣寺を比較してみる楽しさがありますね。それが、何年に誰が建ててみたいかな情報ばかりだから。

(小田垣教育長)

いつもそういう議論をしていますので。

今年、清明高校と鴨沂高校で文化財保護の学習をさせてもらっています。そのテキスト

を工夫していますけども。

(山田知事)

やはり府立高校で本当に京都というものをしっかりと踏まえた日本史や文化史を学んでもらわないと。京都に誇りを持つ、京都に愛着を持つ、そういうものがないとグローバルな世の中を生きていけない。グローバルとはそういうことですよね。アイデンティティーがないと、単に訪問者になってしまうだけだから。だからグローバルな教育をする、サテライト校をつくるということは、その前に京都のこと、自分の地域のことを学べる環境を作ってあげることが、やはり教育の一番大きな目標ではないでしょうかね。

(小田垣教育長)

そのあたりは大綱にきっちり書いていただいておりますので、それをどう指導に生かしていくかということですね。

(山田知事)

もっとはっきり書けばよかったな。次回までにちょっと改訂案を持ってきて。

(森下文化スポーツ部長)

今いろいろご指摘いただいたことは、これからの時代の変化に合わせ、教育も文化もやはり次のものを目指してしっかりと積み上げていきますので。

(山田知事)

今の体制になって、本当に短い時間で作って、それも議論が右往左往している中なので、やはり進化する大綱にすべきだと思う。特に時代はどんどん変わっていくのだから、大綱を一回作ってそれを使い回すのはおかしい。大綱は教育委員会と知事部局とがすり合わせた一つの結論で、大綱が変わらないのだったら今日の話も無駄ではないですか。今の法体系では大綱を変えない限り、私の意見は一切教育委員会に反映されない。あとは皆さん方の好意で反映してくれるだけなので。

(森下文化スポーツ部長)

では、ありがとうございました。今日いただいた意見を持ち帰りまして、またこの大綱に取り組んでまいります。